

この病気に
この専門医
専門病医院

茨城県
つくば市

つくば糖尿病センター 川井クリニック

患者と二人三脚で糖尿病を克服



川井紘一院長



つくば糖尿病センター 川井クリニック
茨城県つくば市東平塚715-1
TEL/029-854-1881
診療時間/月～金9:00～12:30、15:00～18:00 土9:00～12:30、14:00～17:00
休診日/水、日、祝



アクセス/JR常磐線荒川沖駅・土浦駅
およびつくばセンターを始点とする「筑波大学中央」行きバスで「筑波大学病院入口」下車徒歩10分
http://www.kawai-clinic.com/

「専門店」と「かかりつけ医」を
モットーとした医療提供

川井クリニックは、日本を代表する研究機関が集まる「つくば学園都市」の一画にある。同クリニックの川井紘一院長は、東京医科大学を卒業後、東京女子医科大学、筑波大学時代を通して、糖尿病治療の第一線を歩んできた専門医だ。その知識と経験を活かして、1996年に川井クリニックを開業した。



待合室にあるショーケースのなかには、さまざまな飲料食品が展示され、それぞれにカロリー表示がなされている

「かかりつけ医」の両立であり、「糖尿病治療を通して、患者さんの全身を診ていきたい」と言う。

患者さんとの信頼関係を重視した治療方針

川井クリニックの基本方針は、①糖尿病だけでなく体全体を診る、②積極的な情報開示、③患者本位の治療の実践であり、患者さん一人ひとりの生活を念頭においた丁寧な指導を心がけている。通院の案内から、病気の説明、健康教室の開催などを記載した「健康手帳」の配布もその一環といえる。

「糖尿病の治療では、医師と患者さんの信頼関係が特に大切ですから、情報開示に努め、わたしたちの考え方に納得してもらうことが必要です」と院長。このような姿勢が患者の多くから好評を博しており、訪れる患者の多くは同院で受診経験がある人たちの紹介によるものだ。

食事の時間を12時間あけて血糖値をコントロール

川井院長は「栄養指導と運動指導をきちんと行い、日常生活を見直してもらおうことが、薬物治療以上に重要」と説く。

たとえば、血糖のコントロールがうまくいかない人のなかには、食事と食事の間隔が短いなど、食事のタイミングを間違えているケースがある。

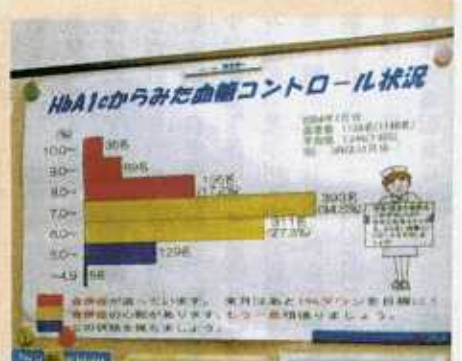
「このような患者さんには、食事の間隔を12時間あける（たとえば、夜7時に夕食をとった場合、翌朝の7時までは何も食べない）ようにすすめます。些細なことと思われるかも



患者に糖尿病とクリニックの情報を伝えるためのタッチパネル式モニター。さまざまな情報を得ることができる」と好評だ

しませんが、患者さんの血糖値を下げる能力を最大限に引き出すことができますのです」

また、同クリニックのスタッフは「個々の患者さんによって指導は異なりますが、共通して心がけているのは、患者さんが肩を落として帰るような指導はしないこと」と力強く話す。患者と二人三脚で治療にあたる姿勢は、院長だけでなくスタッフにも浸透しているようだ。



ヘモグロビンA1cコントロール状況を表すポスター。合併症の危険性など、患者にわかりやすいものとなっている